

広報

# もり 中部の森林

私の森語り「森林が変われば社会が変わる」  
信州大学 准教授 茅野 恒秀

写真：「ブルースカイ」 佐野 武将（南信署管内）

## 特集

・令和3年度 中部森林技術交流発表会

各地からの便り

・長野県林業大学校へ業務紹介 ほか

## シリーズ

・森林官からの便り、私の森語り、秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林



国民の森林・国有林

林野庁中部森林管理局



2022/No.215

中部森林技術交流発表会 WEBで会場と発表者を結びライブ配信

【技術普及課】

一月二十六日から二十七日にかけて、令和三年度中部森林技術交流発表会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当局と署等や民間の発表者等をWEB会議システムで結んでの開催としました。



発表審査会場 (中部森林管理局 大会議室)

今年度は、国有林の部十七課題、民有林・学生の部五課題の計二十二課題の発表が行われ、国有林の部から以下の三課題が優秀賞に選定されました。

天然力を活用した

再造林について

金沢山ヒノキ

南信森林管理署 & 信州大学

天然更新が良好なヒノキ林において上層木を伐採し、伐倒木と更新木の位置関係や伐採等による更新木の損傷状況を詳細に分析・把握することで伐採後の再造林費の削減可能額を推定したほか、伐倒方向を考慮することで、更新木の保残率の向上や再造林費の更なる軽減が期待される。

木曽ヒノキ天然林における

種子調査中間報告

温帯性針葉樹林の

保存・復元に向けて

木曽森林管理署

ヒノキ・サワラ・アスナロの三種について、種子の豊凶状況と気象データの比較から結実前二年の七月の平均気温差からある程度豊凶が予想できること、さらに三樹種ごとの母樹からの種子の飛散距離を明らかにしたことで、温帯性針葉樹林の天然更新施策の効率的な実施が期待できるデータが得られた。

「檜皮の森」森林整備協定の

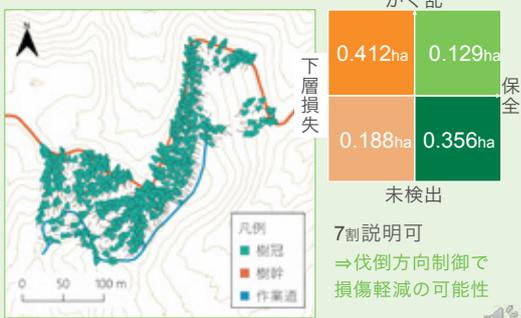
取組について

木曽森林管理署 南木曽支署 &

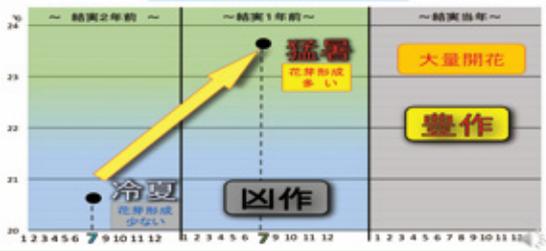
全国社寺等屋根工事技術保存会

日本固有の屋根葺き技術である檜皮葺の資材の確保を目的とした「檜皮の森」において、二十一年間にわたる森林づくりや後継者となる職人の育成、森林環境教育の実施等の様々な取組により、伝統文化の伝承が図られていること、また檜皮葺がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを契機に更なる取組を進めている。

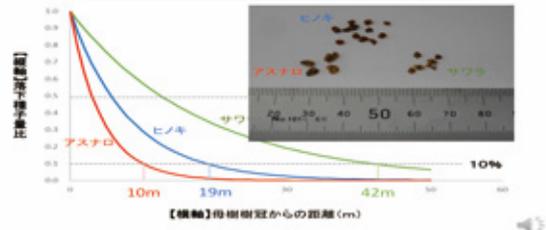
伐倒木と更新木との空間関係



豊作の条件



種子の飛散距離 調査結果



写真(上) 平成28年研修生査定会の様子



写真(右) 採取された良質な檜皮

「国有林の部(十七課題)」

このほか、様々な課題等を取り上げ、幅広い分野から報告がありました。

「森林技術部門」

●多様な森林づくりについて

- ・侵入広葉樹を活用して木材生産機能も志向した針広混交林の造成
- ・スギとウダイカンバが競合しないような針広混交林への誘導

- ・地元要望に応えた広葉樹植栽後十年の森づくりの成果
- ・古い木曾ヒノキ根株の酸素同位体比の解析による過去における森林の成立構造の推定

●治山(崩壊地復旧)について

- ・土壌藻類を吹付工資材とした安価で環境に優しい工法の検証
- ・周辺植物の自然侵入により植生回復を図る緑化工法の検証
- ・レーザ測量やボーリング調査等による詳細な地質構造解析を通じた大規模崩壊地の復旧方針の策定

●UAV・ICTの活用について

- ・多岐にわたる森林官業務のUAVの活用による省力化の検討
- ・ドローンとAIを活用したクマ剥ぎ被害把握の効率化手法の検証
- ・電波不感地域での効率的な事業実行に向けた通信環境の構築

「森林保全部門」

- ・林地条件、被害状況、費用対効果を踏まえた効率的なニホンジカ対策モデルの検討
- ・イヌワシの保護に向けた生息地における営巣環境整備等の取組
- ・松枯れ被害拡大地域における、地域と連携した被害対策の取組

「森林ふれあい部門」

- ・市民・企業・行政が連携した二十一年にわたる多様な森づくりの取組

「民有林・学生の部(五課題)」

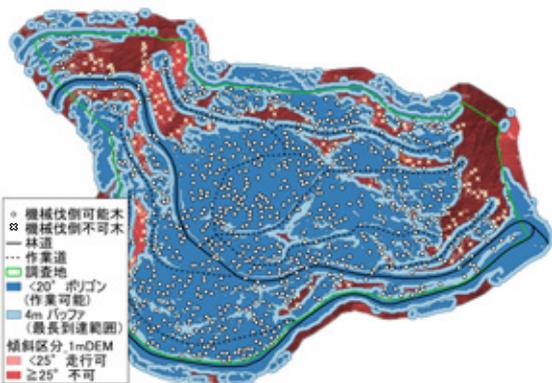
【学生部門(奨励賞)】

実生形質の樹種間比較と形質が実生動態に及ぼす影響(名古屋大学)

林内の十九種の木本等の実生の形質を調査し、全ての形質が林内の環境要因と実生の生残に影響があり、特に四つの形質が実生の生残や密度に強い相関があった。

DEMデータを活用した高性能林業機械使用基準マッピング(信州大学・北信州森林組合)

ドローンにより得られた詳細な地形データ等を活用し、高性能林業機械の作業区域の視覚化や高性能林業機械の導入の判断にも活用可能な手法を開発。



伐倒可否の分類を加えたマッピングデータ (信州大学 唐澤氏)

【民有林部門(森林・林業振興賞)】

ドローン画像を活用した施業提案書等の林業普及指導員の支援の取組み(長野県北アルプス地域振興局)

スマート林業技術を活用することで、これまでより低コストで説得力のある施業提案書が作成でき、森林所有者との合意形成に極めて有効であった。

岐阜県下に植栽したコウヨウザンの初期成長(岐阜県森林研究所・岐阜県立森林文化アカデミー)

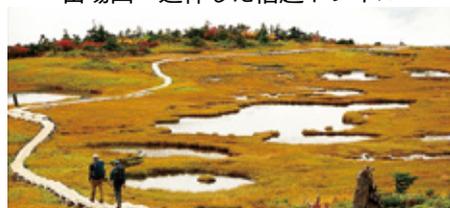
早生樹コウヨウザンの六試験地における初期成長の状況やノウサギによる食害防止対策の必要性についての報告。

信越トレイル苗場山へ延伸(信越トレイルクラブ)

北信地区の関田山脈に開設した全長百十キロに及ぶルートについて、人と地域を結ぶ「ロングトレイル」という新たな文化を根付かせていくための地域一体となった取組。



苗場山へ延伸した信越トレイル



今回も、多くの方々のご理解ご協力を得ることで、中部森林技術交流発表会を無事に開催することができました。

今後も、地域や時代の要請に応じた技術の開発と普及に取り組んでまいります。

なお、詳細につきましては、QRコードを読み込んでください。



# 私の仕事!~若手職員等からのメッセージ~

林野庁で行う事業や取組の「基礎となるデータ」を調査、報告する事が主な業務。

～例えば～

### 林況調査

森林資源の蓄積量を把握し、木材生産量の参考とする。

### 境界管理

国有地と民有地の境を明確にし、不当な侵害を防ぐ。

### 獣害対策

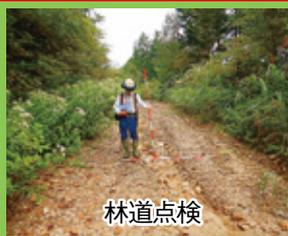
センサーカメラを設置し、生息している野生鳥獣を地域ごとに調査し、対策事業や市町村に対しての共有を行う。

などなど……。

- ・年間を通して様々な分野の業務に携わることができる。
- ・経験を積むとさらに多くの業務に携わることができる。



林況調査



林道点検



境界管理



獣害対策



遊歩道等整備



土地貸し付け



国有林で伐って運ばれてくる丸太。  
その直径と長さを測って、売りやすい状態にする。  
仕事の「発注」「監督」←私の仕事



境界業務の説明

## 長野県林業大学校へ業務紹介 若手職員等からのメッセージ

### 【木曽森林管理署】

令和三年十一月十九日、当署において、長野県林業大学校(以下「林大」という。)の一学年を対象に今後の進路等の参考にしていただくことを目的に、森林管理署の役割など若手職員を中心に実体験を交えた業務を紹介しました。

はじめに、青木署長より「当署は林業大学校とも連携があり、本日も林業技術者の育成に寄与したい」と挨拶があり、その後、次長から国有林野事業の概要、組織制度、国有林の果たすべき役割を説明しました。

続いて、新規採用職員から各年代層の職員九名が順に、入庁時の志望動機、採用年次・現在の職務内容、公務員としての心構えなど十一の項目等について五分の持ち時間をフルに活用した業務紹介を行いました。

若手職員からは、入庁前の仕事のイメージと現在の仕事を比較しながら、実際の一日のスケジュール

ル等を交えた説明を行い、中堅職員からは、様々な職務経歴を踏まえた仕事の紹介もありました。

また、学生から事前寄せられた質問には、「国有林と民有林を、現場で見分けるにはどうすればよいでしょうか」、「地域によって森林の違いがあると思いますが、異動された際にその違いで困ったことはありますか」、「男女によって仕事内容の違いはありますか」など時間が許す限り丁寧に回答しました。

聴講した学生からは、「歳の近い先輩からベテランの経験を積んだ方まで、幅広い世代の方々の仕事内容を具体的に聞くことができ良かった」、「業務内容だけでなく、アドバイスも寄せていただき、より身近に感じることができた」、「今後も勉学を頑張りたい」などの感想がありました。

当署には林大OBが多く在籍し、学生たちは先輩からの説明に熱心に耳を傾けていました。

今後関連教育機関と連携しながら林業経営・就業体験等を通じ、次代の林業を担う人材の確保・育成対策を積極的に進めていきます。

**OJT「木材の加工・流通・販売・利用」の実施**

**【木曽森林管理署】**



令和三年十一月三十日、木曽地域の製材工場・木材販売所において、「木材の加工・流通・販売・利用」をテーマにした職場内研修を実施しました。

**①池田木材株式会社（上松町）**

天然木曽ヒノキ丸太の製材・加工について、丸太を見ながら木材の欠点などについて、丸太一本一本の素性や使い道を考えながら丁寧に製材しているところを見学し、我々も質の良い木材を生産するために、より良い山づくりをしているかなければならないと感じました。



木材の欠点について説明を受けている様子

**②木曽官材市売協同組合（上松町）**

製材品と丸太の市売を通して、木材の流通や用途などを学びました。

ここでは、製材品の「競り」を体験し、販売される製材品を見ながら、競りで用いる指文字を教えてくださいました。実際に指文字やかけ声を使って競ってみましたところ、高級と思われる木曽ヒノキ材はものすごい競り上がりを見せ、高値がついてしまいました（みんな気前よく競っていました）。競りの最中は、製材品の欠点や価値を考えながら、購入価格を検討し、競合者との駆け引きなど、とても良い経験となりました。



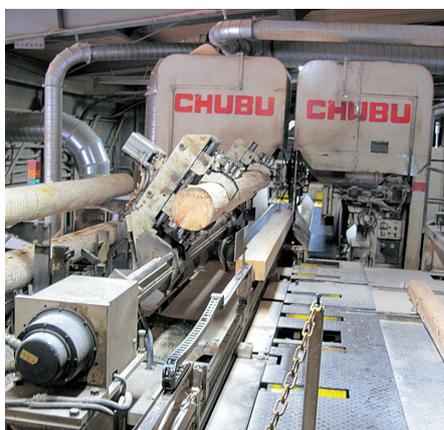
研修生が仲買人となり、「競り」体験をしている様子

**③株式会社勝野木材（南木曽町）**

ここでは、工場の製材ラインを見学しました。丸太を製材した後

の乾燥工程など安定した品質の製品を造りつつ集成材に負けない精度、強度の明示を行い販売しています。工場は、コンピュータによって製材の省力化・低コスト化が図られ、樹皮等を肥料として再利用し、また、製材時に出る端材もネット販売するなど木材を余すことなく利用していました。

勝野智明社長曰く、「原木をより高く買い、山にお金を返す、それにより山も良くなる」という考え方に感銘を受けました。



工場の製材ラインの様子

**④妻籠町並み交流センター（南木曽町）**

当施設は、閉校した小学校跡地に地域の交流の場として建築中であり、建設にあたっては、南木曽

支署管内の人工林ヒノキ6メり材約五十本を通し柱として使用し、天井は特殊なアーチ状の構造となっていることから、木の温かみを感じることが出来ます。



建設中の妻籠町並み交流センターの見学

最後に、木曽地方における木材産業はどの時代においても最も重要な産業の一つであり、木材の流通に限らず、環境を整え、水を育み、人間の健康を支える役割があるということを実感できました。

今後も川上となる国有林から販売、流通に至る川下まで視野を広げ、業務に取り組んでいきたいと思えます。



恵那農高

「木曾ヒノキ備林」見学

【東濃森林管理署】

令和三年十月二十六日、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科二年生二十七名が中津川市加子母裏木曾国有林の「木曾ヒノキ備林」を見学しました。

この取組は岐阜県の「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、林業体験や自然体験の活動などを「緑と水のことも会議」として毎年行われているものです。

当日は、当署職員から木曾ヒノキ備林の概要と安全上の注意を行い、裏木曾古事の森育成協議会のガイドの案内により、式年遷宮斧入れ式跡、二代目大ヒノキ等の天然林を散策、所々で旧森林鉄道敷やトチノキ等の天然林の巨木を見学しました。

前日からの雨も上がり、昼食を含めた約六時間の体験は、毎年一人は被害を受けるヤマビルに出合うこともなく、無事に終了することができました。

生徒の代表から、「貴重な体験



式年遷宮斧入れ式跡の解説を聞いている様子

をさせていたただくとともに、国有林の木が身の回りのものだけでなく、昔から伊勢神宮などの歴史的建築物に使用されていたことなど、多くのことを学ぶ機会となりました」と感想をいただき、このような取組の大切さを改めて感じたいです。

参加された生徒の皆さんが、今後自然や森林に関心を持ち、あわよくば将来森林に関わる仕事に就いてくれることを期待しながら、皆さんを見送りました。

語って登ろう「小秀山」

「東濃の森林林業を語る会」による登山

【東濃森林管理署】

令和三年十一月六日、中津川市加子母本谷国有林において、「東濃の森林・林業を語る会」主催による「晩秋の小秀山を登ろう」と銘打った国有林見学会（小秀山登山）が行われました。

岐阜県中津川市と長野県木曾郡王滝村に跨がる、「小秀山」（標高一、九八二メートル）は、阿寺山地最高峰の山で、山頂から北側に御嶽山の大きな山容を望むことができました。また、稜線部には巨石が点在し、特に「兜山石」と呼ばれる岩峰は人気スポットとなっています。



山頂から見える雄大な御嶽山

当日は県職員、地元林業関係者、当署職員など総勢二十二人が参加し、往復約八時間の行程を「加子母スカイウォーカー

ズ」のガイドさんに案内していただきました。

道中では「見どころビューマップ」の撮影、境界巡視、貸付地及び作業許可地内の施設の確認・調査等を行い、山頂では、御嶽山の雄大な景色を満喫し、小秀山の歴史や魅力を改めて知ることができました。

また、管内の林業関係者の皆様と交流することで、東濃地域の林業の現状と課題、今後の展望を考える良い機会となりました。



山頂での集合写真（撮影のためマスクを外しています）

当署ホームページ「見どころビューマップ」は、以下のQRを読み込んでください



シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

【**ちゆうしん** 中信森林管理署

白馬治山事業所

治山技術官 前田秀則

白馬治山事業所は長野県北部にある白馬村に所在し、北アルプスがある大北地域の治山事業を主に担当しています。



春の白馬連山

大北地域は有名な山岳観光地で、スキー場が数多く集まり、本物のパウダースノーが味わえる白馬村、雨飾山・風吹岳など登山客に有名な小谷村、黒四ダムへの乗降アクセス駅がある大町市があります。

近年は、海外からの観光客も非常に多く、インバウンドの恩恵を受けて活気にあふれていました。が、新型コロナウイルスの影響で海外渡航が制限され、かつてほどの賑わいはない状況です。

白馬治山事業所で管轄している地域には、大町から白馬・小谷を通って日本海に流れる姫川に沿って「糸魚川・静岡構造線」が走っており地質が脆く、山くずれ・地すべりを起こしている所が多数存在します。

国有林内にあるそのような箇所で行うのが主な仕事です。

治山工事は、写真のような山地災害で崩壊した山を土木的手法で元の緑豊かな山に戻す工事です。

崩れた箇所は急峻であるため、現地を確認しながら安全作業に十分配慮し、工事を進めています。



山地災害で崩壊した箇所(浦川国有林)

治山工事でこのように



## ■未来の担い手への

メッセージ

大雨や地震などの自然現象が山を崩し、現在の北アルプスの綺麗な山々の形を作り出しています。自然の力はとうすることできませんが、国有林で起こる自然災害が町に住む人々の生活に与える影響を、少なくすることはできると考えて日々、治山事業の仕事を行っています。



雪に埋もれた白馬治山事業所と筆者

シリーズ

# 「私の森林語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「森林が変われば社会が変わる」



信州大学人文学部 文化情報論・社会学 准教授  
茅野 恒秀

## ■自己紹介

東京生まれの埼玉育ち。いわゆる「埼玉都民」でしたが、夏休みは父の故郷・霧ヶ峰の麓へ帰省する少年時代を過ごしました。国連の地球サミットは中学時代、大学に入学したのは地球温暖化防止京都会議が開かれた年です。環境問題と社会との関わりに自然と目が向き、環境社会学や環境政策の研究を志しました。

## ■活動内容

私の研究と実践の原点は、群馬県みなかみ町の国有林で二〇〇三



霧ヶ峰にて共有林の境界確認に同行しての調査

年から行われている「赤谷プロジェクト」。大学院に通いながら勤務していた日本自然保護協会の職員として、一万畝の森林を舞台に生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める枠組み構築に挑戦しました。

プロジェクトは今年で二十二年目、森林施業によるイヌワシの生息環境改善など成果を積み重ねています。特筆すべきは、今では町がユネスコエコパークやSDGs未来都市に選ばれ、森林資源を活用した地域づくりに多くの若者が結集していること。森林が生長するように、地域社会も育っていたのです。このような協働の場や、課題解決の社会的な仕組み

づくりが私の研究の柱です。例えば、長野県安曇野市の「里山再生計画」と連携した調査では、研究室の学生と一緒に市内をくまなく歩き、薪ストーブのあるお宅（約千六百軒）を全て把握、アンケートで薪の利用実態と課題を明らかにしました。



調査のついでに薪割りのお手伝いをするこも

長野県伊那市では、地場産の木のおもちやが東京都新宿区の新生児に届けられる仕組みがあります。これが木工職人の経営を支え、地域に新たな協業を生み出していることの効果なども研究しています。



木工職人へのインタビュー調査。精巧な漆塗り技術の解説を受けている様子

## ■メッセージ

森林と社会は表裏一体の関係です。木材利用から気候変動対策まで、森林の多様な働きや機能をうまく活かすには、社会からの持続的な働きかけが欠かせません。森林や山村での暮らしに魅力を感じる学生は、今、確実に増えています。彼らと共に確かな未来をつくっていききたいと思います。

## ○連絡先

信州大学人文学部  
〒390-0186  
長野県松本市旭三二一  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第10回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「木馬」

木馬は明治時代に入ってから導入された運材方法であり、木製の櫛そりに積み上げた木材を人間が曳ひいて運びます。ただ闇雲やみくもに力任せちからまかせで



大正時代末期の木馬運材  
(現在の岐阜森林管理署管内)

動くものではなく、運ぶルート(木馬道)の設定・整備、油を撒いて摩擦を少なくするなど工夫が必要でした。ほんの僅かでも下り斜面が水平でないと動かすのは困難だったようです。



昭和15年頃の木馬運材  
(現在の南信森林管理署管内)

技術や工夫があってもなお、木馬曳ひきは優れた身体能力が無いと務まらない重労働であり、山稼やまかせぎの中では花形の仕事だったと伝えられています。

木馬運材の危険を減らすため一本のレールに沿って動かす「単軌木馬」なども導入されましたが、林業の機械化と共に昭和四十年代ぐらいつまに姿を消していくことになりました。



昭和30年頃の単軌木馬への積み込み  
(旧長野営林局管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



シリーズ

### 設定目的

苗場山の西・南斜面の1帯には、我が国でも有数の規模の高層湿原、※せつでんしょくせい雪田植生、高山草原等があります。また、大岩山は、おおいわやま東西及び南北に延びる尾根筋に、安山岩の方状節理が発達し、切り立った断崖状の特異な景観を呈するとともに、広大な苗場山湿原の突端部となっています。

これらの生物群集を有する森林の保護・管理を図るために、設定しています。

### 地況・林況

苗場山の西・南斜面には十二立方<sup>キロメートル</sup>に及ぶ山頂台地にトキノウやモウセンゴケが生育する広大な湿原、大小の池沼や高山草原等が広がっています。また、この台地を取り囲むようにオオシラビソが優占する亜高山性の針葉樹林が広がっています。

第四紀の新しい火山により成立した地形であり、大岩山の南方から西方は高さ五百<sup>メートル</sup>に達する断崖となっています。

所在地  
長野県栄村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

# 山頂に広がる天空の湿原

なえばやましつげん  
苗場山湿原

生物群集保護林

トキノウ

ショウキラン

※雪田植生とは、雪が吹きだまり、長く雪がある場所に生える草花のこと。雪がない短い期間で成長、開花・結実しなくてはならないため、環境に適応した種類のみが生育する。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

**冬の社会貢献活動**  
 歩道の氷を割りながら  
 除雪作業

一月七日、下呂市小坂町大島橋、樵夫大橋の歩道一八〇メートルを当署職員により除雪作業を行いました。

両橋の付近には小坂駅や小中学校、商店があり、通勤・通学者等の利用が多い橋であるとともに、高齢者方も利用される場所となっています。



唐鍬で氷を割っている様子



突き鍬で氷を割っている様子

今年、ここ数年に比べ積雪が多く、年末年始の降雪で歩道に積もった雪が踏み固められ凍結、滑りやすくなっていました。この歩道を利用する皆様の安全確保を行うべく職員十五名が除雪作業を行いました。

作業当日は北風が吹く寒い中、自主的に参加した職員一同は汗をかきながら二時間の作業を行いました。凍結した歩道は、思いのほか堅く、国有林ならではの林業用の唐鍬、突き鍬が威力を発揮し作業がはかどりました。

今回の除雪作業により安全に通行できるようになりました。  
 (岐阜森林管理署 担当者)

今月号の  
 表紙の写真  
**「ブルースカイ」**

林野庁「わたしの美しい森フォトコンテスト」(平成29年度)  
 「中部森林管理局長賞」受賞作品  
 撮影場所・長野県茅野市八ヶ岳  
 撮影者・佐野 武将



この作品は、抜けるような真っ青な青空と、急峻な山々を背景に雪をまとった木々の美しいコントラストが特徴で、真冬の凜とした山岳地を一度は訪れてみたいと思わせてくれる魅力にあふれています。

※わたしの美しい森フォトコンテストについては、林野庁ホームページで、入賞作品を写真集にして紹介しています。  
 当サイトは、次のQRコードを読み込んでください。



**編集長だより**

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、  
**migoro@maff.go.jp**まで電子メールでお送りください。)

中部局管内は、ずーと！寒い日々が続いております。私が通勤で利用する飯山線は大雪の影響で、度々遅延・運休、さらに計画運休などで、帰宅できないこともありました。こんなときは、ポジティブに悪天候を楽しむため、長野県民支えあい 信州割SPECIAL!を活用し、ホテルに泊まり、クーポンを利用して、雪を見ながらひとり飯！一時的旅気分が味わえます(^o^)。次の日にいつもの通り出勤すると！同僚から「電車動いたのか?」、ホテルに泊まってうまいもん食ったよつと！若干の優越感をささやかに味わっています(^.^) また、次の大雪に期待(^\_^)☆

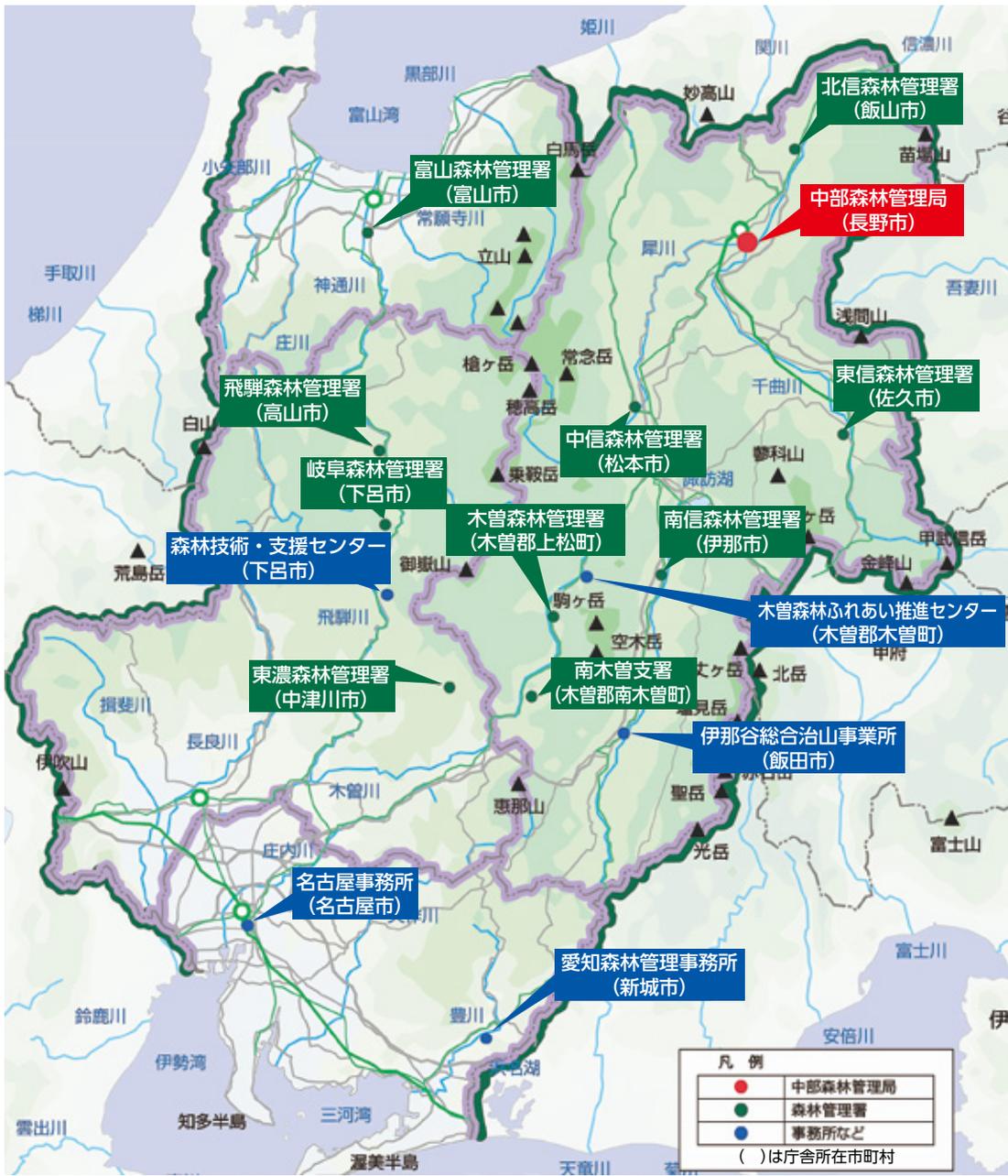
今月は、北京オリンピック2022が開幕し、ウィンタースポーツも真っ只中！スピード感あふれる冬の競技に一喜一憂しながら日本人選手の活躍に熱い声援をおくりましょう！頑張れ！ニッポン！また、オリンピック観戦の合間には、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景もご覧になってください。



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



16.中崎尾根2(飛騨署管内) 高山市 奥飛騨温泉郷



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ



広報  
「中部の森林」



用語の解説  
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
FAX：026-236-2733  
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>  
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。